

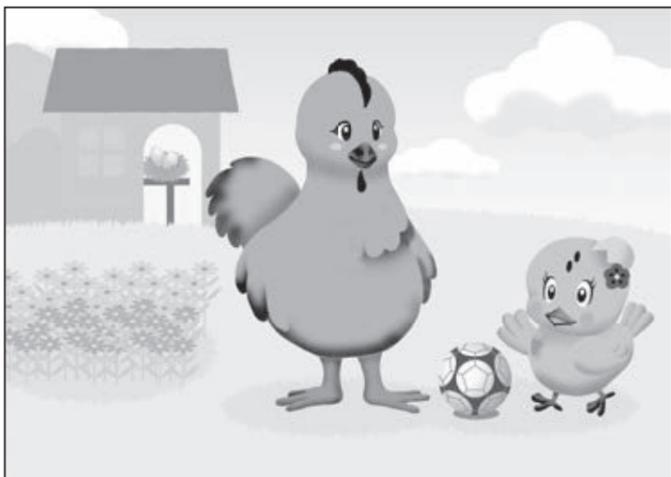
なびやこーちんのひよこ

なびやこーちんのひよこ

ぼうけん



1



②

ある日、なごっぴーがお庭でサッカーをしていると、お母さんが言いました。

お母さん

「なごっぴー、お母さんは、生まれた卵を

保育園に預けてくるわ。いい子でお留守番できる？」

なごっぴー

「うん、大丈夫！お母さん、行ってらっしゃい。」

そういうと、なごっぴーは、また遊びに戻りました。

その様子を見ると、お母さんは出かけて行きました。

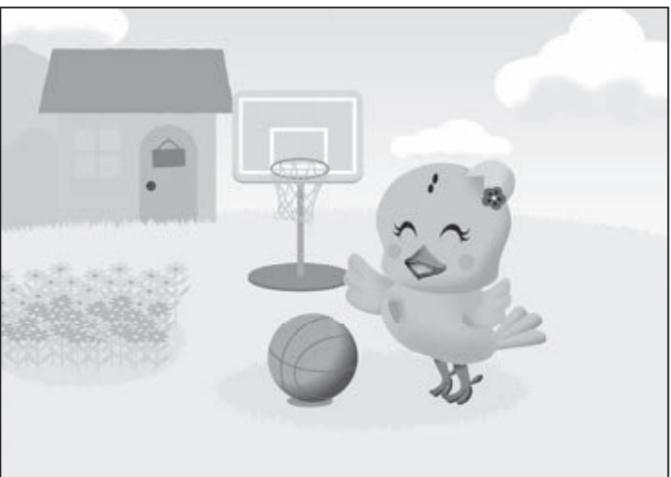
—ぬく—

演出ノート

やさしく、語りかけるように

元氣よく





③
なごっぴー

「お母さん、出かけちゃったし、

次は、バスケットボールをしよう！ シュート！

(ちよっとの間)

エイイ、ヤッター！ ゴールに入ったー！ ヤッター！

(ちよっとの間)

うーん、お母さんまだかなあ？…うーん…」

なごっぴーは、しばらく遊んでいたのですが、

我慢できなくなってしまいました。

なごっぴー

「もう、お母さん遅い！ 待っているのも 退屈だなあ。

よし、私が迎えに行っておあげよう。」

なごっぴーは、勢いよく家を飛び出して行きました。

なごっぴー

「行ってきまーす！」

ーぬくー

演出ノート

元氣よく

元氣よく

心配そうに

心配そうに

思いついたように

元氣よく





④

家から出てきたものの、

なごっぴーは、保育園の場所も、

お母さんがどちらに行ったのかも分かりません。

なごっぴー

「あれっ、お母さんは、どっちに行ったんだろう？」

保育園って、どこにあるんだろう？」

そこで、なごっぴーは 勇気を出して、

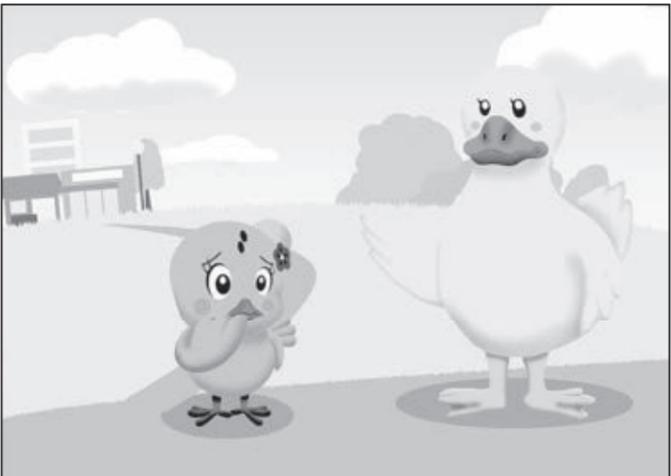
周りの人に 尋ねてみることにしました。

― ぬ く ―

演出ノート

困ったように





⑤

周りを見渡していると、アヒルのお母さんが
こちらへ歩いてきました。

なごっぴー

「あつ、アヒルのお母さんだ！ ちょっと聞いてみよう。」

なごっぴーは、勇気を振りしぼって、

風の音にも負けそうな小さな声で聞きました。

なごっぴー

「すいません、さっきここ近くで飛べない鳥を

見かけませんでしたか？」

アヒルのお母さん

「飛べない鳥？ うーん、そうねえ。」

あ、さっき、あっちの方で見た気がするわ。」

アヒルのお母さんは、商店街の方を指さして言いました。

なごっぴー

「あっちの方ね、ありがとうございます。」

そう お礼を言うと、なごっぴーは、商店街の方へ

駆け出して行きました。

—ぬく—

演出ノート

思いついたように

小さな声で、
おそるおそる

悩みながら

思いついたように

愛想よく





⑥

少し走ると、アヒルのお母さんが言っていた鳥を見つけました。でも、それは、なごっぴーのお母さんではなく、

ダチヨウのお父さんでした。

なごっぴー

「確かに飛べない鳥だけど、お母さんじゃないや。どうしよう。」
なごっぴーが悩んでいると、

ダチヨウのお父さんが話しかけてきました。

ダチヨウのお父さん

「おうおう、こんなところで何をしているんだい？」

なごっぴーは、低くて大きな声に怖がりながら、

なごっぴー

「あ、あのう。この近くで、赤いトサカの鳥を

見ませんでしたか？」

と尋ねました。

ダチヨウのお父さん

「赤いトサカ？ そうだなあ… そういえば、

さっきスーパーで赤いトサカの鳥を見た気がするぞ。」

ダチヨウのお父さんがなごっぴーに近づいて言いました。

あまりにも近かったので、なごっぴーはびっくりして、

なごっぴー

「あ、あ、ありがとう、ごさいましたー。」

と、逃げるように、走り去って行きました。

演出ノート

困ったように

不思議がって

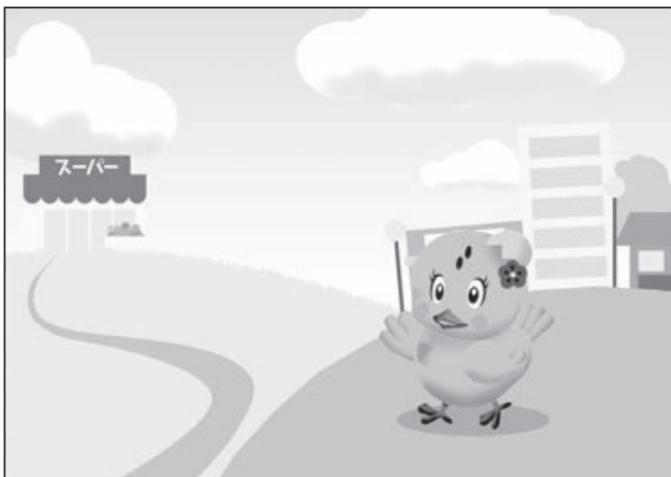
おそろおそろ

考えながら

思いついたように

あわてて





⑦

なごっぴー

「あー、びっくりした。でも、

スーパーにいるのは、きっとお母さんだ。行ってみよう。」

不安な気持ちを抑えて、スーパーに向かって

歩き出しました。

スーパーは、坂を登り続けたその頂上に

ひっそりと建っていました。

なごっぴー

「あっ、あれがスーパーだ。」

ーぬくー

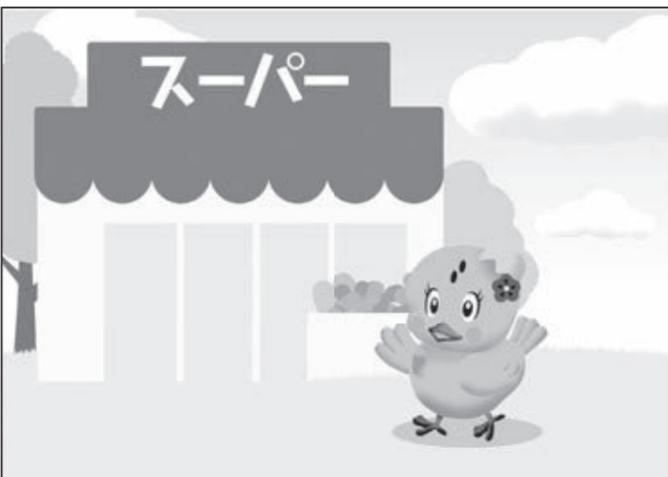
演出ノート

ほっとしたように

思い直したように

元気よく





⑧

なごっぴー

「ふう、ようやく着いた。お母さん、いるといいな。」

そう つぶやくと、

なごっぴーは、スーパーの中へ入って行きました。

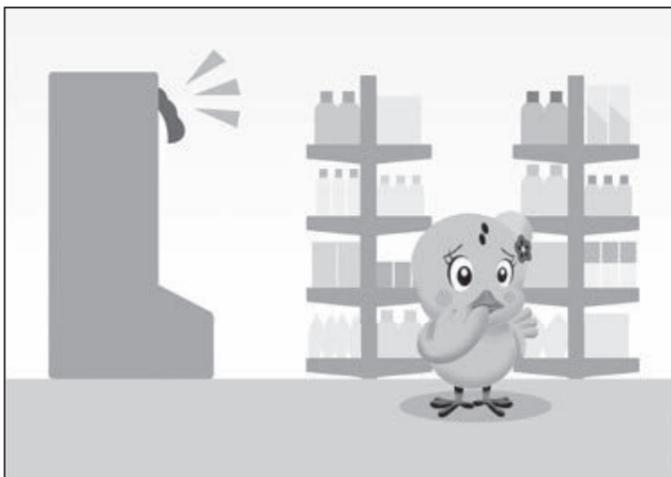
—ぬく—

演出ノート

ほっとしたように

スーパー





⑨

なごっぴー

「ウーン、お母さん、どこかな？」

スーパーの中で、あっちへ行ったり、

こっちへ来たりしていると、

棚の間から赤いトサカが見えました。

なごっぴー

「あつ、あれは赤いトサカ！お母さんだ！」

なごっぴーは、嬉しさのあまり、大声で叫び、

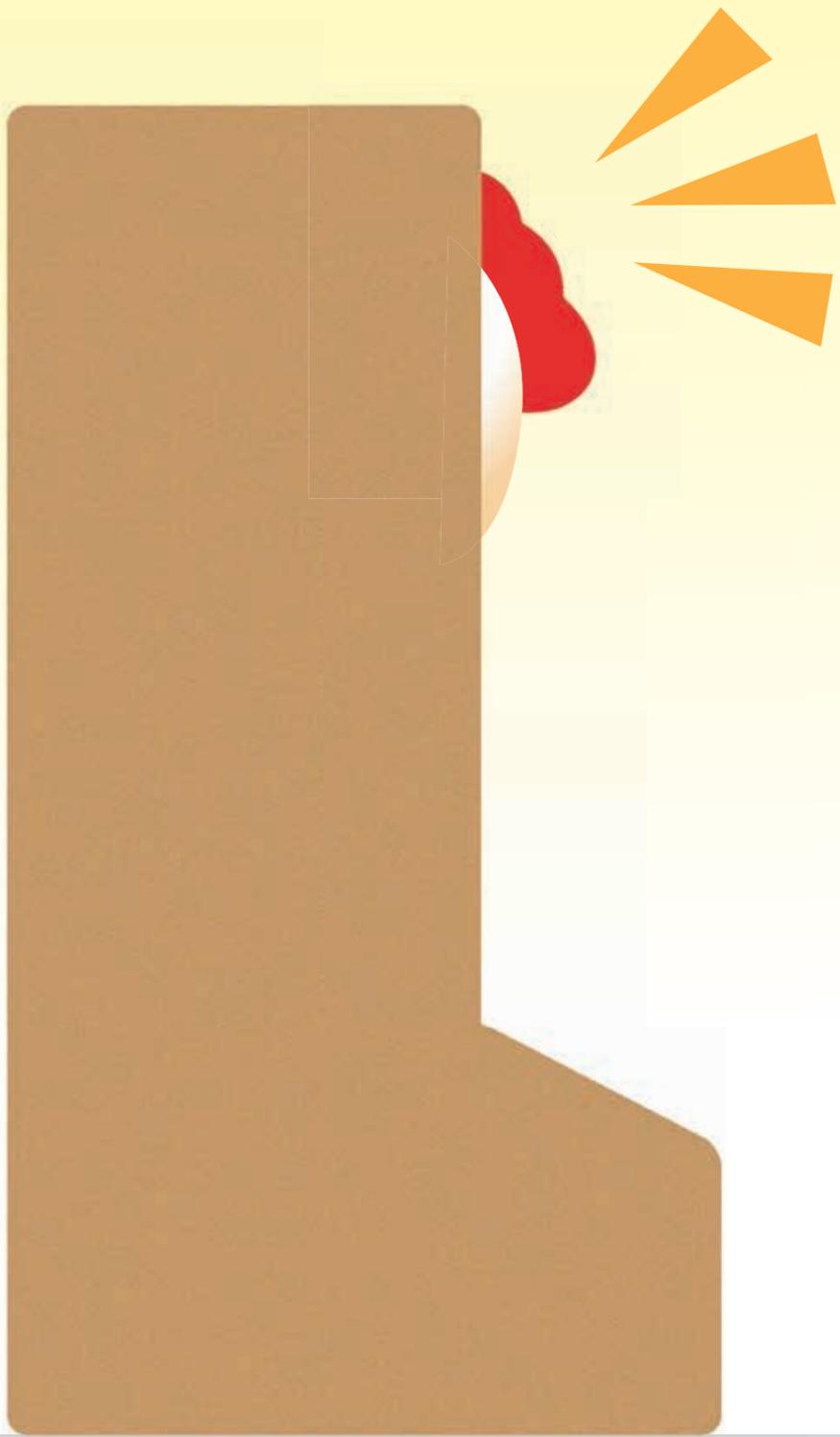
赤いトサカが見えたほうへ駆け出して行きました。

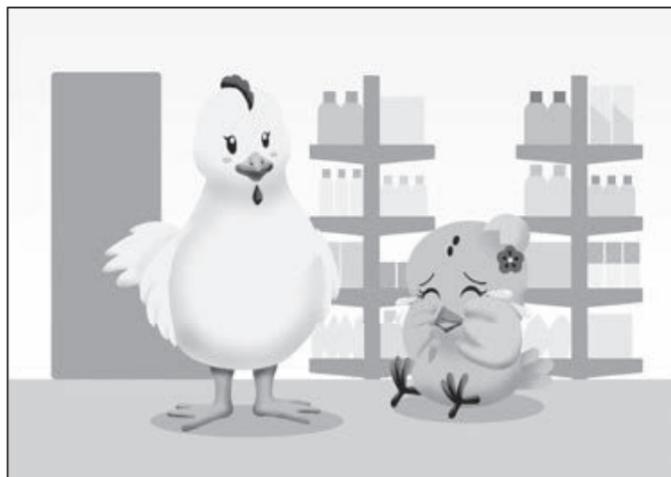
—ぬく—

演出ノート

迷いながら

大きな声で、
うれしそうに





⑩

なごっぴー

「お か あ さ ー … あ れ ？ ？ ？」

棚の前へ出て、抱きつこうとして、赤いトサカの鳥を見ると、その鳥は、きれいな白い体のニワトリでした。

その体を見たなごっぴーは、歩き続けて
疲れていたのか泣き叫んでしまいました。

なごっぴー

「う え ー ん、お母さんじゃない！」

お母さんは、赤いトサカだけど、体はバフ色をしているもん！
白くないもん！

それに、足は黄色じゃなくて 灰色だもん！
お母さんを出してよ！！うえーん。」

ーぬくー

※バフ色とは、
薄い黄褐色のことをいいます。

演出ノート

途中で、何かに気付いたように

駄々をこねるように





⑪

なごっぴーが泣き叫んでいると、

ニワトリが話しかけてきました。

白いニワトリ

「お母さんを探しているの？」

なごっぴー

「うえーん、うえーん。」

白いニワトリ

「あなたのお母さんが分かるかもしれないわ。

もしかして、保育園に向かったんじゃない？」

ニワトリがそういうと、なごっぴーは急に泣きやみました。

そして、ニワトリに尋ねました。

なごっぴー

「えっ？ お母さんを知ってるの？」

白いニワトリ

「さっき見たわ。桜色の卵を持って、保育園のほうに

歩いて行ったのを見たの。少し遠いし、一緒に行きましょう。」

親切なニワトリが、なごっぴーに言いました。

なごっぴー

「うん、ありがとう」

なごっぴーはうなずくと、ニワトリと一緒に歩き出しました。

—ぬく—

演出ノート

優しく

泣いているように

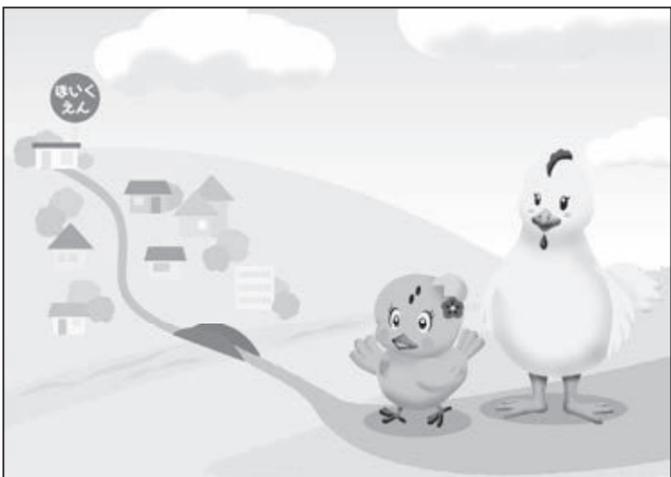
優しく

驚いて

優しく

うれしそうに





⑫

保育園は、なごっぴーが思っていたより

ずっと遠く、川を越え、

町をひとつ越えたところになりました。

なごっぴー

「まだかなあ…お母さんは…」

なごっぴーは、弱音を吐かず歩いていましたが、
もう限界でした。

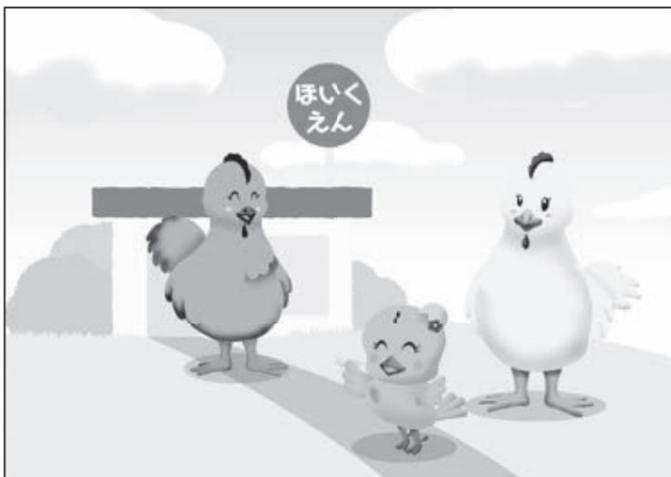
ーぬくー

演出ノート

疲れたように

ほいく
えん





⑬

そのとき、前から見慣れた姿の鳥が歩いてきました。

目を凝らすと、灰色の足、バフ色の羽…、

間違いなくお母さんです。

なごっぴー

「あっ、おかあさーん!!!」

なごっぴーは、疲れを忘れ、お母さんのもとに走って行きました。

お母さん

「あら、なごっぴーじゃない。どうしてこんなところにいるの?」

なごっぴー

「お留守番が暇だったから、お母さんを迎えに来ちゃった。」

お母さん

「でも、遠かったでしょ。大変だったでしょ?」

なごっぴー

「ううん、ちょっと疲れたけど、平気だよ!」

お母さん

「そう、それはよかった。じゃあ、一緒に帰りましょう。」

なごっぴーは、ちよっぴり嘘をついて

お母さんに言いました。

お母さんは、「ふふっ」と笑って、

なごっぴーと一緒に歩き始めました。

—ぬく—

演出ノート

うれしそうに

驚いて

照れたように

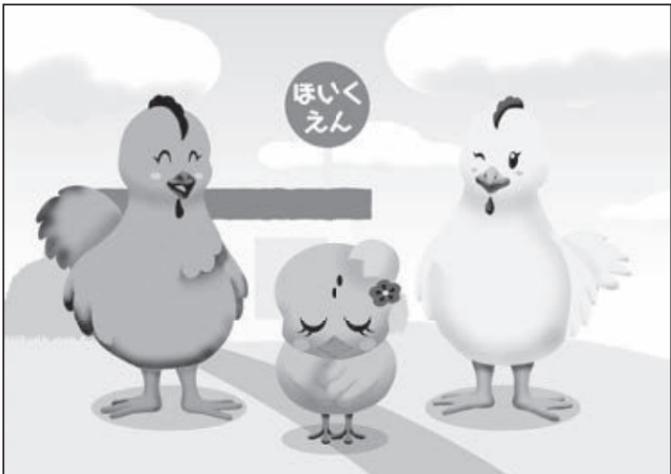
心配そうに

元気そうに

安心したように

ほいく
えん





⑭

なごっぴー

「にわとりさん、ありがとうございます。さようならー。」

なごっぴーは、帰り際にニワトリのほうを見て、

幸せそうな笑顔で お辞儀をしました。

ニワトリは、なごっぴーにウィンクすると、

保育園へ入って行きました。

なごっぴー

「お母さん、今日のご飯はなあに？」

お母さん

「そうね、…何がいい？」

なごっぴーとお母さんは、手をつないで、

仲良く帰って行きました。

—ぬく—

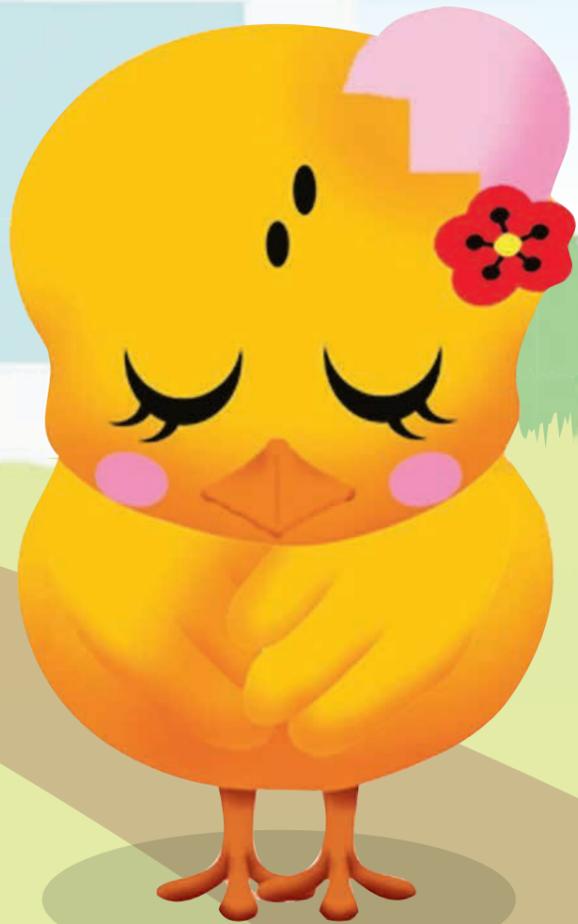
演出ノート

うれしそうに

うれしそうに

優しそうに

ほいく
えん



お
し
ま
い



⑮

ごあいさつ

一般社団法人名古屋コーチン協会は、消費者の皆さまが名古屋コーチンの鶏卵肉を安心して食べていただくことに努めています。また、名古屋コーチンの普及事業とりわけ食育事業に関する取組みを近年強化しています。今回、幼いお子様向けに、紙芝居“なごっぴーの冒険”を作成しました。これは、日常生活の中で“なごっぴー”（名古屋コーチンのひよこのキャラクター）がお母さんを探すという小さな冒険の物語を通じて、名古屋コーチン自体の特徴をお子様覚えてもらうことを目的に作成した教材です。

幼稚園・保育園の教職員の皆さまにおかれましては、この紙芝居を園児さんたちに演じていただき、園児さんの名古屋コーチンに関する関心を高めていただければ幸いです。

なお、末尾ながら、この紙芝居作成にご協力いただいた公益財団法人愛知県農業振興基金、愛知淑徳大学福祉貢献学部白石ゼミ、同大学コミュニティ・コラボレーションセンター、名古屋市農業センターの皆様にお礼を申し上げます。

一般社団法人 名古屋コーチン協会
理事長 多田 実

演
出
ノ
ー
ト

おしまい





名古屋コーチンのヒヨコ
なごっぴーの冒険

脚 本 住田 聡
 キャラクター画 条 隆行
 制 作 一般社団法人名古屋コーチン協会

①

これは、名古屋コーチンのヒヨコ「なごっぴー」の
 ちよっとした冒険の物語です。

それでは、はじまりはじまり…

— ぬ く —

なごやこーちんのひよこ なごっぴーのぼうけん

2014年1月発行

(15 場面)

発 行 一般社団法人 名古屋コーチン協会
 〈平成 25 年度公益財団法人愛知県農業振興基金助成事業〉
 編 集 一般社団法人 名古屋コーチン協会
 名古屋市農業センター
 印 刷 株式会社 マルワ
 協 力 愛知淑徳大学福祉貢献学部白石ゼミ
 愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター
 名古屋市農業センター

発行所 一般社団法人 名古屋コーチン協会
 名古屋市中区丸の内 3-4-10 大津橋ビル
 TEL 052-951-7510 / FAX 052-253-6658

演出ノート